

平和がいちばん

2014年3月15日
第81号
平和で豊かな枚方を
市民みんなでつくる会



さよなら原発3・9関西行動(大阪市扇町公園)

主権者である市民からよくみえる 透明性の高い市議会へ

市議会は市民が選んだ議員で構成されています。市議会は手続きにおいても、論議される内容においても高い透明度が求められます。

今、枚方市議会で『議会基本条例案』が審議されています。この案には多々問題があります。最大の問題点は、現在の議会で慣行とされ、この案でも継続が示されている「会派」優先の議会運営です。これが議会の透明性を低いものにしてしています。選挙の時、有権者は個人の「名前」で投票します。個人名で選出され議席を持ちその責任を果たすのが市会議員です。ところが当選すれば「主義主張が同じ」とする3人以上で「会派」を組み、議会はその会派を中心に運営されています。「会派」に所属していなければ、①予算・決算委員になれない、②市長の年間市政運営方針に対して質問できないなどの差別扱いを受けます。議会には「会派代表者会議」なるものがあり、市民には非公開で議事録もありません。この秘密会で運営や意見集約など重要なことが決定されています。市民には「ブラ

ックボックス」です。このように議員個人ではなく会派優先の市議会がいいのでしょうか。効率的な議会運営のためとの説明ですが、たかだか34人の意見集約など全体議論を尽くせばいいのです。そして会派優先は、議員個人の責任を覆い隠すものとしても作用しています。議員一人ひとりの主体性を奪うことは、市民主権に相反することです。また選挙時の公約や日頃の発言と議会内での態度が異なる場合も出ています。議員の公約と所属する会派の意見のズレは、議員個人の考えが優先されるのは当然ですが、現在の会派優先では選挙民を裏切っていることとなります。また『議会報』も議案や決議案に対する賛否は会派ごとの記載で、議員個人の意見が市民から見えなくされています。

市会議員34名は平等な資格を持っています。議員個人を中心に議会運営することが、市民にとって透明性の高い、議員にとって自らが有権者の付託に応えられているか常に検証することにつながります。透明度の高い議会へ改革を。

お互いの違いを前提に 多様性を
認めあうことのできる社会を

わわわのわ

切り捨て教育に抗い続ける元高校教員

山田 光一さん



(3月4日 ひこばえ)

山田光一さんの36年の教員生活は、多くの困難を抱えた生徒と向き合う手探りの毎日だった。退職後の今、教員生活での生徒とのかかわりの積み重ねの中で「互いの違いを前提に、多様性を認め合うことが社会を良くする基本」との確信に至っている。

10歳までは東大阪市で過ごした。戦地からの帰還者が近所にいた。彼が戦場での行為を反省もなく語るのを聞き「戦争とはこういうものだ」と子供心に焼きつけられたという。60年安保で史上空前の国民的大運動が闘われた時代は「安保反対」のプラカードが家の玄関に置いてあり、「安保反対ごっこ」をして遊んでいた記憶がある。大学時代は「沖縄返還」闘争・ベトナム戦争反対の闘いの昂揚があり、熱心に関わった。ベトナム戦争は、ベトナム人民が世界最強のアメリカに勝利するという劇的な出来事だったと振り返っている。

大学卒業後、高校の教師になった。東淀川区の高校に勤務。後に「困難校」と呼ばれる「荒れている」高校での教育のあり方が問われることになる。多くの中学から「番長」が集まり、生徒間の序列がすぐにできるという状況だった。比較的貧しく、また家庭的にも恵まれない環境の子どもが多く、在日の生徒の割合も高かった。こうした被差別の立場にある子ども達が自らの「荒れる」原因は何かを考え、社会的立場を自覚していける人権教育や在日の文化・言語を学びあう場をつくる取り組みも開始された。また、障害者も健常者も共に学び共に生きるという教育運動が始まった時期だった。いくつかの高校でも障害児の受け入れが試みられ、また普通学校で定員割れが起こると障害児が入学できる状況が、運動の力で作られはじめていた。

クラスの集団づくりは難しかったが、うれしい思い出もある。卒業した数年後に、一人の卒業生が訪ねてきた。彼は在校中に自閉症の生徒を陰でいじめ

ていたとのこと。しかし卒業後にある施設で働き、障害者とかかわる中で、当時の自分の行為を思い出してそのことの意味に気づいたという。在校当時はその生徒のイジメ行為には気づいていなかったし、あまり深いかかわりはもてなかった生徒であったが、卒業してからそのような過去の行為に目をそむけることなく、あやまりたいという彼の言葉に感動したという。卒業生は今も、その障害のある友人と付き合い、保護者が亡くなった今は友人を支える存在にもなっている。山田さんは、「成果はなかなか見えないが、生徒同士が卒業後、支えあえる関係になれる。学校生活で、あまり分かっていないと思えた子どもが、そのように変わることができる。政治は、なかなか良くなり、光が見えない中で、この変革は大きな希望になった」と語っている。

今、彼は、「日の丸・君が代」不起立問題に深くかかわっている。「起立しない教師、生徒、保護者の行為を排除でなく、認められる社会にしたい。『日の丸』が直接戦争をイメージできない世代が多数になったが、戦争の記憶がうすれる中でこそ、『種』を残しておきたい」と。また、中学卒業後に生きる場所がなくなる子ども達がいる一方で、生徒や学校を成績で切り捨てて競争をあおる教育が進められている中で、「障害児や全ての人々が社会的に互いに認め合える、寛容な社会をつくること」が夢だと語っている。

山田さんは「趣味は特にない」といいながらも、好奇心は旺盛で、忙しい合間をぬって、あらゆる傾向の書物を手にしている。彼の部屋は書物であふれ返っているとの話が伝わってきている。

取材・文 おおた幸世



私は3月5日に第2子を出産しました。

第1子の長男が生まれてから3年間、私の生活環境は主に『ママ友ワールド』の中になりました。みんな良く似た環境にあるので、いいことも悪いことも、不安も喜びも共感しやすいから居心地がいいのです。

子連れでの不便さや、その解消法もお互いに共有したり助けあったりしやすいし、その反面、そこでの話題の殆どは日々の子育てについてで、ごく限られた狭い世界ではありました。

昨年1月に枚方市に転居し、それを機に知人を通じて『おいしく食べよう会』や『やんちゃっ子枚方』に少しずつ参加させて頂くようになりました。それらに参加し、これまであまりお話しする機会がなかった世代の方々と接することにより、ママ友ワールドの中では話題にならなかった事についてもお話を聞け、私にとっては改めて考えさせられたり勉強になったりするととても良い機会になりました。

例えば、特定秘密保護法案の強行採決についてです。反対意見や、メディア批判も多い中であれよあれよという間に採決されてしまったことに違和感や不安を覚えているだけでも、やはり『政治』

『憲法』という、本来私たち国民のためにあるはずのものの敷居が高く感じられるのが正直なところで、難しいことは分からないし、私が何かしたところで変わらないだろうという意識もあり、日々の子供の世話を追われ自分から行動を起こすこともないまま過ごしてきました。

けれどもさまざまな立場や年代の方の話を聞くようになり、将来、子供たちが自分たちで身を守らなければならなくなった時に、自ら考え行動し生きていけるように、親として自分の言葉できちんと説明してあげられるよう少しずつでも勉強していきたいと意識するようになりました。ちなみに、私がこういった話題を分かりやすく身近に感じさせてくれていると思い参考にさせてもらったのが、お母さんたちが発起人となっている『豊橋いのちと未来を守る会』のウェブサイト(<http://inomira.jugem.jp>)です。もし、私と同じように勉強したい気持ちはあっても『政治』や『憲法』についてなんて身近に感じづらいと思っていらっしゃる方がいらしたら、ぜひ一度ご覧になってみてください。きっと少しハードルが下がるのではないかと思います。

短 信

この春も 福島の子どもたちを招いてキャンプします

福島の子どもたちを枚方に招く保養の取り組みは今春で4回目になります。この3月29日(土)から4月3日(木)まで、今回は宮之下町にある日本キリスト教団香里ヶ丘教会を生活施設にお借りしての取り組みです。

大震災から3年が経ちました。被災地ではまだまだ大変な状態が続いています。特に福島の子どもたちに健康被害が起こっていると報道されています。そして放射能の影響の少ない地域で過ごすことで免疫力が高まると言われていることから、短い日数ですが子どもたちを枚方に招き、ハイキングや外遊びなどを楽しんでもらおうと企画しています。また保護者との交流で、私たちに知らされていない被災地の苦しみを知る機会にもなればと考えます。

これまでの取り組みを地域のたくさんの方々から物心両面で支えていただきました。小さな取り組みですが、福島と枚方がつながっていることを強く感じています。

今回のキャンプへもご支援をお願いします。(S)

お 知 ら せ

市民の会 第8回総会

(平和で豊かな枚方を市民みんなでつくる会)

3月21日 午後1時開会

会場：メセナひらかた

<講演> テーマ「沖縄の闘いと地方自治」

講 師 西岡信之さん

(沖縄国際大学非常勤講師・元枚方市職員)

2月12日 **安倍首相は退陣せよ** 国会答弁で「最高の責任者は私だ。政府の答弁に私が責任をもって、そのうえで選挙で審判を受ける」と、憲法解釈は首相が行うと発言した。歴代の自民党政府ですら違憲だと言ってきた集団的自衛権行使を「合憲」とするための発言。本来、法律や憲法は時の権力者が勝手に判断してよいものではない。そうであれば、憲法や法律の意味はなくなる。これにはさすがに自民内部からも異論が続出している。当初、安倍首相は96条を変えて、9条改憲のハードルを下げようとしたが、国民の批判で96条先行改憲が難しくなり、解釈を変えることで実質的な改憲を行おうとするものだ。しかし、これは安倍首相の強さでなく焦りの表れでもある。市民の声を大きくして、解釈改憲の野望を頓挫させよう。安倍首相を退陣させよう。

2月16日 **東京都日野市議会議員選挙** 無所属市民派の有賀精一さん初当選。彼は、原発廃止、現在約1000万円の日野市議報酬半減、住民無視のごみ焼却施設建設反対や市民に開かれた議会を訴えて立候補。この主張に共感して私も選挙初日の9日から2日と半日、応援に行ってきた。大雪の街頭でも選挙事務所でも市民の反応はよかった。「市民の手に議会や行政を取りもどす」とのあたり前の主張が市民の支持を得た。同じ思いの議員が増えることはうれしい。今後も連携して活動を続けたい。

2月24日 **市議会本会議開会** 市長から市政運営方針、来年度予算案が提案された。「平和と人権を守る」を言いながら、憲法9条の役割や憲法について一言も触れていない。現在の平和の危機に触れなくて、市長として「平和」を語る資格があるのか？楠葉・牧野・菅原・津田・さだ生涯学習市民センター、御殿山美術センターと併設の各図書館を一体管理し、民間に管理運営を委託する方向を打ち出した。生涯学習市民センターや図書館の管理運営を民間にまかせては、市民の学習や活動を支援する行政責任の放棄ではないか。市の責任を明確にした上での管理運営の改善が必要だ。

2月27日 **母親の介護** 大腿骨骨折で入院していた母親が老健施設に入所。目標はひとりだけで歩けること。病院や老健、法律で決められた基準の人数は確保されているが、全体として人手不足のように思える。現場の職員さんは大変だろうと思う。もっと人手を増やせる財政的保障が必要だ。そのこと抜きには、行き届いた看護や介護は難しいと思う。「家族負担を軽減する」と導入された介護保険、現実には、制度のゆがみが家族にしわ寄せされる。抜本的改革が必要だ。

3月1日 **枚方平和の日** 午後、映画「爆心 長崎の空」を鑑賞。夕方岡東中央公園での平和の燈火に参加。平和の日の取り組みはよいことだ。戦争被害だけでなく、アジアへの加害責任を明らかにする取り組みが必要だとも思った。

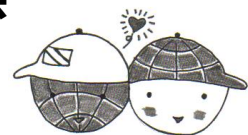
2月24日 2月分議員報酬から223880円を法務局に供託



金曜日行動で宣伝
(3/7 岡東中央公園)

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

- 共同代表 松本 健男 (弁護士)
 家高 憲三 (元教育長)
 黒田 薫 (平和都市ひらかたを考える市民の会)
 鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)
 おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
 事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)



「会」のシンボルマーク
塔本賢一さん作

〒573-1197 枚方市禁野本町1-5-15-106 市民の広場“ひこばえ”

Tel&Fax 072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですがご連絡ください。